

学術標本のかたちに触れてみませんか？

# hands on

東京大学総合研究博物館 ハンズオン

東京大学総合研究博物館 マクロ先端研究発信グループ共同活動

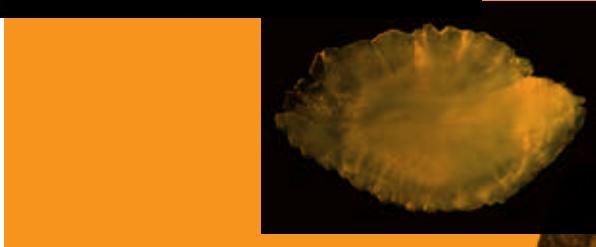
## 「かたちを読み解くハンズオン・ギャラリー」

2018/8/1 水・2木

会場／東京大学総合研究博物館

東京都文京区本郷7-3-1(東京大学本郷キャンパス内)

東京大学総合研究博物館は、生物・鉱物・考古など多岐にわたる分野で学術標本を用いた先端研究に取り組み、その成果を世界に発信しています。標本の形態から分かる情報は、どの分野の研究にも欠かせません。研究者による解説を聞きながら、学術標本を手にとって、その「かたち」に触れてみませんか。



※詳細・参加要領は裏面をご覧ください。

# Hands On ハンズオン

ハンズオン・ギャラリー(10:00-16:30 曜休憩12:00-13:00)

2018/8/1 水・2木

ギャラリー① ※2日(木)のみ

隕石から探る太陽系のかたち

地球に落下した隕石は太陽系が誕生した約45億年前から現在までの進化過程を記録している。さらに近年の惑星探査と合わせると隕石と実在する天体の関係も明らかになりつつあり、太陽系の“かたち”的理解が進んできている。

(新原隆史・東京大学大学院工学系研究科 隕石学、鉱物学)

ギャラリー②

つばさのかたち—翼竜、トリ、コウモリの比較

飛翔する脊椎動物には、絶滅した翼竜と、鳥類、コウモリがいる。これらの分類群には翼を持つという共通点があるが、その構造はどうなっているのだろうか。化石レプリカを用いて翼竜、トリ、コウモリの翼を比較してみよう。

(久保 泰・東京大学総合研究博物館 古生物学)

ギャラリー③

耳石のかたちから識別する魚の種類

魚の内耳には「耳石」とよばれる硬組織があり、平衡感覚や聴覚を司っている。この形や大きさは魚の種類によってさまざまである。AIのディープラーニングを使って、耳石の形から魚の種類を識別できるか一緒に試してみよう。

(黒木真理・東京大学大学院農学生命科学研究科 水圈生態学)

ギャラリー④

昆虫のオス・メスのかたちのちがいを読み解く

昆虫では、オスとメスとで形の異なる種が多いのも特徴の一つである。また、一見オス・メスに違いが見られなくても、よく見ると異なる部位がある。このような違いはなぜ生まれたのだろうか。様々な部位を観察しながら、その違いの意味を読み解く。

(矢後勝也・東京大学総合研究博物館 昆虫自然史学)

ギャラリー⑤

犬歯のかたち—ニホンザルのオスとメス

ヒトの歯にはあまり男女差がみられないが、サルではかなり異なる。オスは大きく長い犬歯を持ち、その辺縁を常に研ぎ澄ませ、敵を攻撃・威嚇するためのかたちを保持している。彼らはどのように犬歯を研ぐのだろうか。

(佐々木智彦・東京大学総合研究博物館 形態人類学)

ギャラリー⑥

炭素14を測る加速器質量分析計が明らかにすること

大気中の放射性同位体炭素14は、放射壊変により減っているのと同時に宇宙線により作られ、現在までなくならず存在している。樹木年輪などの炭素14を加速器質量分析計で測ることでわかるこれまでの炭素14の変化の形は何を意味するのだろうか。

(尾寄大真・東京大学総合研究博物館 年代学)

ギャラリー⑦

うつわのかたち1—土器片が語る古代社会

遺跡に残されたモノは、たとえ小さな断片に過ぎなくても、人類の過去を伝える豊かな情報を宿している。文明発祥の地・メソポタミアで出土した土器片の形から、古代の工芸技術と社会の発展を読みとてみよう。

(小高敬寛・東京大学総合研究博物館 近東考古学)

ギャラリー⑧

うつわのかたち2—ボトル型土器の迷路を解く

人間は歩く。人体に水は欠かせない。だから栓をして水を運ぶ容器は重要だ。口のすぼまった形状は中に手が入らないため、粘土で作るには工夫がいる。祈りと遊び心に満ちた古代アンデスのボトルの組み立て方と使い方を解説する。

(鶴見英成・東京大学総合研究博物館 アンデス考古学)

## ◆参加要領

事前申込み不要、参加無料。小学生以下は、保護者の同伴が必要となります。

<問い合わせ>

東京大学総合研究博物館事務室 TEL: 03-5841-2802 <http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

<会場>

東京大学総合研究博物館 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

「かたちを読み解くハンズオン・ギャラリー」

東京大学総合研究博物館 ハンズオン

